

## 「周産期心筋症（産褥心筋症）の発症に関する前向き研究」

当院では周産期心筋症（産褥心筋症）の発症に関する前向き研究（多施設国内共同研究）に参加しております。この研究は国立循環器病センターが主任施設として、国内約 100 施設の協力の下行われております。この研究は、周産期心筋症の長期予後や詳細な危険因子を解明することを目的としております。東京大学医学部附属病院は、血中マイクロ RNA が周産期心筋症の病態にどのように関与するか解析をする、研究分担施設として参加いたします。

### 【対象となる方】

2010 年 4 月 1 日 ~ 2018 年 3 月 31 日の間に国立循環器病センターが周産期心筋症と診断した患者さん

### 【研究の意義】

周産期心筋症の長期予後や詳細な危険因子は明らかになっておりません。周産期心筋症の病態を解明し、予後予測因子を同定することによって、周産期心筋症の新たな検査法あるいは治療法の開発に繋がる可能性があります。

### 【研究の目的】

ヒトの周産期心筋症の病態を解明し、予後予測因子を同定し、同様の分子機序がマウスなどの他の生物でも成り立つかどうか確認することを目的とします。

### 【研究の方法】

この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、東京大学医学部倫理委員会の承認のうえ実施されます。国立循環器病センターで既に採取された血液検体を用いて行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

また国立循環器病センターで既に収集されたデータ（匿名化された病歴聴取、身体所見、血圧・脈拍、心電図、心エコー検査の結果、血液検査）（資料 2. 学外から送られるデータ一覧を参照）を連結可能匿名化後のデータとして、国立循環器病センターからご提供頂きます。

上記の検体及びデータの使用は、当院では、2 名（清水峻志、瀧本英樹）に限らせて頂きます。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで 2020 年 3 月 31 日までに御連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後 5 年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたします。下記までご連絡ください。ご不明な点がありましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

2017年5月

**【研究機関名】**

周産期心筋症（産褥心筋症）の発症に関する前向き研究班  
研究統括医師：国立循環器病研究センター周産期・婦人科部長 吉松淳  
東京大学医学部附属病院は分担研究施設に登録しています。

本研究に必要な資金は、肺高血圧先進医療研究学講座の講座運営金より拠出します。本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。尚、あなたへの謝金はございません。

**【問い合わせ、苦情等の連絡先】**

東京大学医学部附属病院循環器内科 特任臨床医 清水峻志  
住所：東京都文京区本郷7-3-1  
電話：03-3815-5411（内線 35591） FAX：03-5800-9780  
Eメールでのお問い合わせ：tshimizu227-tky@umin.ac.jp  
医療機関名 東京大学医学部附属病院  
責任者名 肺高血圧先進医療研究学講座 特任准教授 瀧本英樹